

三宝について

1. 仏陀

「仏」は、インド語を語源とする **buddha** (ブッダ) を漢字の「仏陀」に置き換えた音訳語を略して「仏」としたものです。それで「ぶつ」と発音するのですが、その「仏」を「ほとけ」と読むことについては諸説あります。「ブッダ」という音が変わったという説もあれば、仏教伝来時に流行した熱病を意味する「ほとほりけ」が変わったという説まで様々あります。しかし、「仏陀」を意識すれば、「覚者 (真理を悟った者)」となり、そこに「仏」本来の意味が示されます。

2. 教法

仏陀の教法の要を一言で言い表すと、「縁起」ということになりましょう。縁起のサンスクリット語はプラティーティヤ・サムトゥパーダで、因縁生起の意味です。つまり、釈尊は、我々の認識するすべてのものは他との関係に縁って起きているということを悟られたのです。これは「有の見」と「無の見」という二つの偏ったものの見方から離れますので中道ともいいます。

3. 僧伽

仏陀 (釈尊) の教法が最初に説かれたのは、ベナレス郊外のサールナートにあるミガダーヤ (鹿野苑) という場所で、かつてともに修行していた五人の者に対してなされたのでした。かれらは、『大無量寿経』が説かれた場所でも最初に名前が挙げられています。

その名をば、尊者了本際・尊者正願・尊者正語・尊者大号・尊者仁賢 (『註釈版聖典—第二版—』、3頁)

これら五人により仏弟子が誕生したのですが、そのことにより仏教教団が誕生したのです。この教団を僧伽と言います。